1. はじめに

2024 年の元日に起きた能登半島地震により、4 月 9 日の時点で、災害関連死を含む 245 人が亡くなり、全壊家屋は約 8700 棟と発表されています。被災地では山間部の道路の寸断、インフラ、住居再建など、懸命の復旧作業が行われているなか、まだ多くの人が避難生活を強いられており、帰還時期の目途がなかなか立たないと聞きます。

一方、ロシアのウクライナ侵攻に加えてイスラエル・パレスチナの紛争が再発し、停戦の見通しが立っていません。障害者権利条約がいう「危険な状況及び人道上の緊急事態」が常態となり、疫病・自然災害・武力紛争による緊急事態が社会的弱者を直撃しています。

協会は聞こえに困難を抱えている人たち、またそのような人を支援する人たちの自助・共助の団体として、設立以来関係諸団体と協力して活動を続けてきました。2013 年 8 月 7 日に認定 NPO 法人となって以来、2 度目の更新認定書を 2023 年 12 月 22 日に受け取りました。協会は障害当事者の集まりとして東京都の福祉施策の一翼を担い、より一層の公共的な役割を果たすべく引き続き認定 NPO 法人として活動を行います。また、私たちは、2024 年度も上部団体である一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の一員として全国の中途失聴・難聴者団体と連帯し、東京都においては東京都聴覚障害者福祉対策会議構成団体やその他の関係団体と協働して、東京都や都議会各会派への働きかけを強化し、私たちを取り巻く現在の困難な状況を乗り越えていきたいと考えます。

2. 協会の対外活動

2.1 情報保障・コミュニケーション支援拡充への取組

2022 年に国政レベルで「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が成立しました。情報が「いつでも、どこでも、だれにも、同じように」保障されることは私たちの基本的人権です。法律は基本理念に①情報取得/意思疎通手段の個別性、②地域格差の解消、③情報の平等性(同一性)・同時性の確保、④デジタルリテラシーの確保、を掲げてこの基本的人権を具体化しており、東京都の情報アクセスやコミュニケーション施策は、この基本理念に沿う形で進められなければなりません。私たち協会は、東京都及び各区市町村の意思疎通支援事業における利用主体、利用目的、利用回数、利用時間などによる制限の見直しを求めると同時に、東京都の事業の担い手である東京手話通訳等派遣センターに「利用者ファーストの事業利用の実現」を、定期的な協議の場を持ち、引き続き強く要求していきたいと考えます。

新型コロナウイルス感染は一応落ち着いたとはいえ、まだまだ完全に安心できるとはいえない状況にあります。コミュニケーション学習はどんなときでも、中途失聴・難聴者の社会的自立と集団としての一体感の確保のために欠かせないものです。協会は、講座・講習会の確実な実施を東京都はじめ関係部門に継続して働きかけてまいります。

2.2 障害者福祉サービスの充実、福祉のまちづくり・災害対策への取組

2020 年度より「新生児聴覚スクリーニングの公費助成」や「聴覚障害児支援中核機能モデル事業」が始まっています。また、2021 年には世界保健機関(WHO)が“World Report on Hearing”を発表し、同年 9 月には「小児人工内耳前後の療育ガイドライン 2021 年版」が公表されました。このように、聞こえの問題を医療、療育、社会生活に位置付けて捉える流れが定着してきており、それを受けて厚生労働省は 2022 年 2 月に「難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針」を発表し、法制化の動きを加速しています。

国の基本方針、難聴児の早期支援及び関係機関連携強化検討会等での検討を踏まえ、①早期から難聴児及びその家族等の支援、②様々なコミュニケーション手段に対し、中立的姿勢を保持、③コミュニケーション手段に関する難聴児及びその家族の選択を尊重、の 3 つの基本方針を掲げ、東京都難聴児相談支援センターが 2024 年 3 月に開所しました。また、難聴児支援ポータルサイトも開設されました。

医療機器としての補聴器購入への公費助成については、区市町村の方針や財政状況に委ねられており、身体障害者手帳の交付を受けることができない 18 歳以下に限定した支援を行っているところが多くあります。その一方で、手帳の交付を受けることができない成人・高齢者に対する支援の地域格差は顕著であり、

その改善が急務になっています。その課題を解決するために、東京都は補聴器購入の公費助成を実施している区市町村に対して、「福祉保健区市町村包括補助事業」による支援を行っていますが、この事業の一部として、2024年度から「高齢難聴者の聞こえのコミュニケーション支援事業」を開始することになりました。事業内容は、区市町村の実施する補聴器補助の半額を都が負担することになっていますが、年齢制限や住民税非課税などの条件がついており、今後も予算増額を中心に改善が必要です。東京都の支援をより一層充実させるべく、地域の会とも連携して区市町村への働きかけをしていきたいと考えます。

また、人工内耳外部機器については、人工内耳プロセッサの修理が補装具制度の対象となり、修理不能による機器交換については医療保険の対象となりましたが、利用者負担の大きさには変わりありません。現在、全国各地の多くの自治体が、国の施策とは別に独自の補聴器・人工内耳利用への公費助成に踏み切っています。東京都においても、制度利用の周知徹底に加えて独自の助成を開始するよう東京都や都議会各政党会派への要望を継続したいと考えます。

一方、福祉のまちづくり・災害対策に関しては、「2020 東京オリンピック・パラリンピック」後の各施設のバリアフリーへの取り組みの進捗度と新型コロナウイルス感染対策への評価が依然として課題となっています。移動のバリアフリーに関しては、国の「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」の改正に伴い、東京都においても建築物、公園、公共交通施設のトイレの出入口の表示についての規則改正が行われました。しかしながら、情報アクセス分野のバリアフリー推進については、2022年5月に国で施行された「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」について、2024年2月の都政モニター結果で都内での認知度は「名前も内容も知らなかった」方が88.9%であったこと等、依然として不十分なままで、多くの課題が先送りされています。4月から障害者差別解消法の合理的配慮が、民間企業でも義務付けになることを受けて、各局面でより一層理解を広げていきます。また、災害対策に関して、東京都は「災害時要配慮者への災害対策推進のための指針」を策定し、「避難行動要支援者名簿の作成」や「個別避難計画の作成」などの取り組みを進めていますが、その実施主体が区市町村になっています。福祉のまちづくりも災害対策も都と区市町村との連携が求められます。協会は、区市町村の中途失聴・難聴者組織と協働して、これらの課題の解決にも積極的に取り組んでいきたいと考えます。

2.3 耳マークを取り巻く課題

1975年に「耳マーク」が制定されてから、私たちはその普及活動を積極的に行ってきました。「筆談による支援」は「聞こえの保障」のための重要なメッセージとして非常に多くの場で活用されています。「耳マーク」は聴覚障害への理解を求めるシンボルマークであり、特定団体が作った宣伝マークではありません。また、シンボルマークであるため、案内用図記号(ピクトグラム)とは違って利用にあたっての説明が求められます。「耳マーク」の普及には、私たちが聞こえについてどのように困っていて、どのような配慮が欲しいかを説明すること、聞こえの問題についての社会の理解を求める活動が求められます。2024年度も様々な機関や施設での「耳マーク」利用を働きかけることで、中途失聴・難聴者に対する社会の理解をより一層広めてまいりたいと考えます。協会で作案した耳マークグッズはたいへん好評で、全国各地から購入申込みをいただいています。

3. 協会の対内活動と組織強化

3.1 対内活動

協会の対内的活動は、理事会を中心に各専門委員会、専門部、サークルが担っています。2024年度は4つの専門委員会と8つの専門部、9つのサークルが協会活動を担います。

事業委員会では現在の受託事業の継続とともに、既存講習会を含む各種講習会・講座の運営管理を行っていきます。また、手話対策部と連携し、既存講習会や外部からの依頼を含む各種講習会・講座への講師・スタッフの派遣を拡大して参ります。

広報委員会では会報「協会ニュース」の記事・編集内容の見直しを継続的に進めると同時に、ホームページの読みやすさ、使いやすさを常に討議し、機能向上を図っていきます。また、広報活動の充実のためSNSなどの媒体を通じて内外への周知を図っていく計画です。

防災委員会では、協会定款第4条「災害救援活動」、第5条「緊急・災害時における聴覚障害者の救助・救援に関する事業」の具現化を図って参ります。

コミュニケーション委員会では、中途失聴・難聴者のコミュニケーションに関わる問題について、協会内外での活動に専門委員会・専門部の枠を超えて横断的に関わり、支援をしていきます。

その他、各月の例会活動を通して、協会内外の中途失聴・難聴者の交流を進め、地域では中途失聴・難聴者自立のための各種講座、講習会を例年どおり実施することを予定しています。また、2023年度に続き、「東京都中途失聴・難聴者の集い」を開催するために、速やかに実行委員会を立ち上げて参ります。専門委員会、専門部、サークルの活動計画の詳細は個別に記載していますので、よろしく参照願います。

3.2 組織強化

毎年繰り返している課題ですが、協会員は2006年度の700名をピークに減少を続けており、2023年度末は492名になりました。コロナ禍が大きく影響していることは事実ですが、仲間との交流を望んでいる多くの中途失聴・難聴者への協会の働きかけが弱まっていることは深刻です。コロナ禍で停滞した各種講座・講習会を通じての仲間との交流の活性化、協会紹介パンフレットやホームページでの協会活動の社会への発信、地域ネットワーク活動を核とした各区市町村の中途失聴・難聴者の集まりとの関係の強化など急務とされることが多くあります。会員数の減少は協会財政に大きな影響を与えるのみならず、協会活動を支える人材の枯渇を招きます。協会員数の回復を2024年度も協会活動の最大の目標にしていきたいと考えます。

3.3 協会財政

コロナ禍が落ち着いた後も会員数減少が続き、事業決算報告のような結果となりました。2024年度は、一定数の会員増加を前提に、事業収支や管理費支出の内容を見直しましたが、現状では約150万円の収支赤字の予算を提案しなければならない状況です。会費・寄付金収入の増加努力、事業費・管理費支出の管理強化など、当たり前のことを着実に実行することで、このような緊急事態を乗り越えていきたいと考えます。会員各位の協会財政へのご理解と協会活動へのご協力をお願いします。

4. まとめ

コロナ禍の影響は社会の各方面でまだまだ深刻です。コロナ禍での人の集まりの制限・自粛は、対面での交流で維持されてきた協会員相互の理解・信頼を希薄にすることになり、協会活動全般に大きな影響を与えました。

私たちが当たり前と考えていた形での交流が、今後変容していくことは間違いありません。一方、そのような変容の中で「なぜ私たちは集まるのか、どのように集まるのか」を問い続けることは、協会活動を点検する非常に良い機会とも考えられます。

協会の定款は「この法人は、都内在住の中途失聴者、難聴者をはじめ、広く聴覚障害者全般に対して、福祉の増進と、生活・文化の向上を図る事業を行い、地域社会に寄与することを目的とする」としています。東京都は人口も多く、他県等との人の出入りも激しいことがあり、各区市町村の中途失聴・難聴者の集まりとの連携に加えて、東京都に通勤・通学されている方の課題への対応が求められます。

協会は認定NPO法人として、活動の公共性が増々大きくなっています。協会各専門部の点検をすることで組織の透明性を高め、協会のより一層の発展を目指したいと考えます。

2024 年度事業計画(一覧)
(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

1. 特定非営利活動に関わる事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所
中途失聴者、難聴者の社会参加のための調査・研究、施策のための提案事業	人工内耳に関する講座	年 1 回	未定
	福祉対策・コミュニケーション関連部活動	年間	東京都障害者福祉会館 他
中途失聴者、難聴者のコミュニケーションの充実のための社会教育事業	聴覚障害者コミュニケーション教室	年 6 回	YouTube 限定配信
	実践読話講習会	年 17 回	東京都障害者福祉会館
	地域コミュニケーション啓発講座	年 3 回	都内 3 か所予定
	地域福祉相談支援ゼミ (手話講習会応用クラス三田)	年 20 回	東京都障害者福祉会館
	手話講習会応用クラス多摩	年 20 回	東京都多摩障害者スポーツセンター
	例会	年 11 回	東京都障害者福祉会館
	高齢者対象「手を動かそう」	年 12 回	東京都障害者福祉会館
	講師等派遣	東京手話通訳等派遣センター 他	
中途失聴者、難聴者の諸問題の解決のための情報収集・提供事業及び他団体との連絡調整	会報「協会ニュース」発行	月 1 回	当会事務所 他
	手話テキスト作成	年間	当会事務所 他
	ホームページ運営	随時更新	当会事務所
	刊行物・耳マーク仕入れ	随時	当会事務所
	第 36 回東京都中途失聴・難聴者の集い	2025 年 2 月 8 日	大田区産業プラザ PiO
中途失聴者・難聴者に係る相談・支援事業	高齢難聴者生きがい講座	年 9 回	東京都障害者福祉会館
	中途失聴者・難聴者相談事業	随時	当会事務所
	中途失聴者・難聴者地域支援事業	随時	東京都障害者福祉会館 他
中途失聴者、難聴者の文化、芸術、スポーツの振興を図る事業	文化系活動	月 1～2 回	東京都障害者福祉会館 他

2. その他の事業

自動販売機による委託販売(8 か所 9 台)

東京都庁第一本庁 4 階南側・東京都第五建設事務所・東京都七生福祉園・東京しごと財団(2 台)・多摩職業能力開発センター八王子校・東京都西多摩保健所・東京都中川水再生センター・東京都中央卸売市場食肉市場

2024 年度事業計画

事務局

1. 体制

事務局長:宇田川芳江 職員:石川千鶴・石田豊子・千羽荘一・福本佳永子・松枝朋美

2. 活動計画

- ・理事会 毎月第 4 土曜日
- ・東京都福祉局との懇談会 7/18(木)
- ・人工内耳に関する講座 未定
- ・「字幕付胃検診」受付 10/5(土)
- ・協会ニュース発送 毎月第 2 金曜日 全 12 回
- ・「第 54 回耳の日記念文化祭」参加 2/22(土)・23(日)
- ・「自立支援センターまつり」参加
- ・「TOKYOみみカレッジ」参加
- ・事務局会議 月 1 回
- ・例会 毎月第 4 日曜日 11 回

実施日	内容	担当
4 月 28 日	2024 年度事業説明会	理事会
5 月 26 日	通常総会	事務局
6 月 23 日	私の作品展示とマルシェ	広報委員会・事務局
7 月 28 日	講演「難聴者が楽しく手話を身につけるには～ポイントは語源とカテゴリー～」	手話対策部
8 月 25 日	講演「難聴者運動や要約筆記の歴史とこれから」	事業委員会
9 月 22 日	講演「聴覚障害者の聴覚補償・情報保障の変遷～電話コミュニケーションの今後～」	事務局
10 月 27 日	新入会員説明会 & 交流会	実行委員会形式
11 月 24 日	全難聴福祉大会(広島)のため休み	
12 月 22 日	クリスマス会	女性部・事務局
1 月 26 日	うたの歌い方・私の伝えたいこと	会報編集部・事務局
2 月	コミュニケーションを豊かに	コミュニケーション委員会
3 月 23 日	防災	防災委員会

事業委員会

1. 体制

委員長:宇田川芳江 委員:石川千鶴・小川光彦・前川信・丸山由美子

2. 活動計画

I 助成事業

(1) 東京都福祉保健財団助成事業の運営管理を行う。

- ① 実践読話講習会
- ② 高齢難聴者生きがい講座
- ③ 地域福祉相談ゼミ〔手話講習会応用クラス三田〕
- ④ 地域コミュニケーション啓発講座(運営担当:組織部)

II 協会受託事業の拡大を図るとともに、下記の受託事業の運営管理を行う。

(1) 聴覚障害者コミュニケーション教室(東京都教育委員会受託事業)

III 協会自主事業の拡大を図るとともに、下記の自主事業の運営管理を行う。

- (1) 手話講習会応用クラス多摩
- (2) 高齢者対象「手を動かそう」

(3)その他

IV手話対策部と連携し、下記の既存講習会や外部からの依頼を含む各種講習会・講座への講師・スタッフ派遣を行う。

(1)東京都中途失聴・難聴者手話講習会 運営担当:(三田)内山伸子・(多摩)志村瞳

(2)東京都読話講習会

(3)東京手話通訳等養成講習会(中途失聴・難聴者対象手話指導者養成コース)

V各講習会運営担当者、手話対策部長などと講習会・講座の講師、スタッフ交代時に選考委員会を実施する。

VI上記活動のため、事業委員会を原則毎月第1火曜日に開催する。

【中途失聴・難聴者のコミュニケーション充実のための社会教育事業】

〔1〕実践読話講習会

運営担当:岡田修 講師:金子晶子・中村貴子 助手:川村文雄・中野徳代

日時:2024年6月12日(水)~2024年11月20日(水) 月3回・水曜日 18時30分~20時30分

全17回(開講式・修了式・特別講演会1回を含む)

会場:東京都障害者福祉会館 募集人数:20名

受講料:会員無料、非会員10,000円、再受講生(会員)8,500円、教材費2,000円

〔2〕手話講習会応用クラス(三田Ⅰ/Ⅱ・多摩Ⅰ/Ⅱ)

2002年度に開催された協会主催の手話講習会応用クラスは23年目になる。受講料は会員無料、非会員は有料とする。定員に余裕があるときは、希望者は再受講の申込みができる。この場合は会員・非会員に関係なく、有料とする。申込受付や修了証作成等の事務手続きは事務局が窓口となる。

運営担当:(三田)国吉玲子・(多摩)芦川君代

募集クラスおよび定員:三田・多摩共に応用Ⅰクラス、応用Ⅱクラス 定員:各クラス25名程度

日時:三田…2024年4月25日~2025年3月13日まで(全20回)

原則毎月第2・第4木曜日 18時30分~20時30分 会場:東京都障害者福祉会館

多摩…2024年4月23日~2025年3月18日まで(全20回)

原則毎月第2・第4火曜日 13時30分~15時30分 会場:東京都多摩障害者スポーツセンター

面接日:三田:4月11日(木) 多摩:4月9日(火)

受講料:会員無料、非会員12,000円、再受講生(会員)10,000円、教材費2,000円

合同講演会:三田・多摩共に20回のうち、適時に講師を招いて、Ⅰ・Ⅱクラス合同で講演会を行う(予定)。

その他:三田・多摩ともに年4~5回、中途失聴・難聴者に必要な理論を各クラス15分程度行う。

〔3〕高齢者対象「手を動かそう」

指導・運営担当:明田美奈子(指導兼務) 助手:福原三子 会計:峯元弘子 受付:南雲淑子

日時:毎月第2月曜日 13時30分~15時30分 全12回

会場:東京都障害者福祉会館 定員:25名

参加費:会員400円、非会員800円 情報保障:要約筆記

単発式なので、楽しい内容、伝わるコミュニケーションに努める。手話を覚えるのが苦手でも、口話や指文字、見ぶりでも受け入れる。

【中途失聴・難聴者に係る相談・支援事業】

〔1〕高齢難聴者生きがい講座

①同じような障害を持った方々との交流・情報交換を通して、聞こえない・聞こえにくいことに対する工夫を学ぶ。

②様々なコミュニケーション方法を体験する。

③一般社会に対して、聞こえない・聞こえにくい人々への対応方法やコミュニケーション方法を広める。

運営担当:中村麻子 会計:今井節子 スタッフ:天野久子・佐々木百合子

日時:原則6月から2月までの第4月曜日 13時30分~15時30分 全9回

会場:東京都障害者福祉会館 定員:20名

参加費:会員無料、非会員800円 情報保障:要約筆記

事業計画

回	実施日	内容	回	実施日	内容
1	6月24日	講演会	6	11月25日	読話入門①
2	7月22日	ハワイアンリボンで ストラップ作り	7	12月23日	読話入門②
3	8月26日	手話入門①	8	1月27日	みんなで話そう
4	9月23日	手話入門②	9	2月24日	懐かしい童謡を手話で 歌ってみよう
5	10月28日	絵手紙を楽しもう			

※スケジュールは変更になる場合があります。

広報委員会

1. 体制

委員長:石川千鶴 委員:小島敦子・村田美和・安井彩乃 オブザーバー:皆川みさ子 事務局:宇田川芳江

2. 活動方針

認定 NPO 法人としてのあるべき広報活動を立案、実行する。

3. 活動計画

- (1)協会内外への情報発信としての会報「協会ニュース」の役割を明確にし、会報編集部と共に記事、編集内容の見直しを進め、会報「協会ニュース」の改善を図る。
- (2)協会ホームページの読みやすさ、使いやすさを常に討議し、機能向上を図る。また、SNS などの媒体を通じて内外への周知を図る。
- (3)その他、認定 NPO 法人として必要な広報活動を進める。
- (4)上記活動のため、広報委員会を原則毎月第 2 火曜日に開催する。

防災委員会

1. 体制

委員長:新谷友良 委員:有馬富江・生田真弓・前川信・米倉光代

2. 活動方針

協会定款第4条「災害救援活動」、第5条「緊急・災害時における聴覚障害者の救助・救援に関する事業」の具体化を図る。

3. 活動計画

活動方針に基づき、他団体との防災活動に関する協働、行政への防災要望、その他以下の防災に関わる活動を行う。

- (1)委員会内での防災・公衆衛生の学習
 - ①国・東京都・区市防災計画の学習と整理
 - ②協会内防災資料の学習資料の作成
- (2)防災・公衆衛生関係の学習・広報活動
 - ①協会例会などを利用した協会レベルの防災講座の開催
 - ②地域防災講座の開催(組織部との連携)
 - ③会報「協会ニュース」の『防災委員会』記事の充実
 - ④協会ホームページでの防災・公衆衛生関係情報の発信(広報委員会との連携)
 - ⑤防災公式LINEの運用
- (3)緊急情報(防災・公衆衛生関係)の配信
- (4)防災委員会委員の拡大

コミュニケーション委員会

1. 体制

委員長:皆川みさ子 会計:小谷野依久 委員:石川千鶴・安井彩乃・渡辺江美

2. 活動方針

- (1) 中途失聴者・難聴者のコミュニケーションに関わる問題について、協会内外での活動に専門委員会・専門部の枠を超えて横断的に関わり、協力する。
- (2) 要約筆記に関わる課題の整理に取り組む。
- (3) 中途失聴・難聴者への理解を広めるために、発信に取り組む。

3. 活動計画

- (1) コミュニケーション関連企画への協力
手話対策部などコミュニケーションに直接関わる専門部への協力や、協会内のコミュニケーションに関わる企画への協力をする。
- (2) 中途失聴・難聴者のコミュニケーションについての発信
中途失聴・難聴という障害について、そのコミュニケーションの特性について、協会内外へのわかりやすい情報発信に取り組む。
- (3) 中途失聴・難聴者の暮らしと社会活動にとって、要約筆記の位置づけ・その果たす役割について、内外の協力を得て課題の整理に取り組む。
- (4) 上記活動のため、コミュニケーション委員会を原則毎月第3水曜日夜に開催する。

要約筆記部 (休部)

福祉対策部

1. 体制

部長:小谷野依久 副部長:田村玲子・渡辺究

部員:青木典子・稲井泰子・鈴木雅弘・錦戸信典・西山萌・橋爪由利・南由美子 オブザーバー:小川光彦

2. 活動方針

中途失聴・難聴者のライフステージやそれらを取り巻く環境において、社会や福祉など様々な視点でのニーズや課題を整理し理解を深め、QOL向上のための自助・共助・公助の問題提起や情報配信を行う。

3. 活動計画

- (1) 月1回、部会を開催する。
- (2) 年6回、活動方針に沿った内容でオンライン学習会を実施する。
- (3) 年1回、実践学習会を開催する。
- (4) サポーター(継続)との交流を通し、協会活動を知ってもらう。
- (5) 部外との横のつながりを持ち、情報交換を行う。
- (6) 会報「協会ニュース」やブログで情報を配信する。
- (7) 部外のイベントにも積極的に参加する。

手話対策部

1. 体制

部長:石川千鶴 副部長:中村貴子 会計:芦川君代

部員:五十嵐郁子・池田ひろみ・市川珠江・入野雅子・内山伸子・大堀亮子・掛水泉・柿崎栄子・河合優子・神尾優子・北島恵子・国吉玲子・久保寺美華・小須田希海・小林道子・小谷田路代・佐々木百合子・志村瞳・神保美穂子・副島香絵・地引千恵子・長沼知子・中野徳代・中村麻子・新実文・原島美江・藤本澄子・丸山ききょう・丸山利江・峯元弘子・森利恵子・安井彩乃・山田恵美子・ランダース聡子・和田すが 38名

2. 活動方針

- (1) 中途失聴・難聴者対象手話講習会のスムーズな運営のための情報交換や環境整備
- (2) 中途失聴・難聴者の手話の啓発と普及
- (3) 部員の手話技術の向上と自己研鑽

3. 活動計画

- (1) 部会は原則毎月第2月曜日の18時30分から開催
- (2) 年2回の部内研修
- (3) 手話に関する講演会
- (4) 自主学習会(参加費自己負担)
- (5) 協会例会や行事への協力
- (6) 手話テキスト「豊かなコミュニケーション」の改訂

4. 年間計画

実施日	内容	実施日	内容
4月15日	第1回部会	10月未定	ミニ手話講座
5月13日	スタッフ研修及び第2回部会	10月21日	第6回研修
6月10日	第3回部会	11月11日	第7回研修
7月8日	第4回部会	12月9日	第8回部会
7月28日	協会例会担当(講演会)	1月20日	第9回部会
9月9日	第5回部会	2月10日	第10回部会
日程未定	スタッフ研修	2月未定	ミニ手話講座
		3月10日	第11回部会

会報編集部

1. 体制

部長:小島敦子 会計:山田恵美子 部員:岩崎幣介・菅波尚子・滝沢佳子・橋爪由利

2. 活動計画

- (1) 協会活動の情報を内外に発信する。
- (2) 会員同士をつなげる大事なツールとして、また会員に寄り添える紙面を目指す。
- (3) 部員の編集能力の向上に向けパソコン技術だけでなく、インタビューなどが行えるような勉強会などを実施する。
- (4) 会員が読みがいのもてる様々な企画で、楽しめる紙面を目指す。
- (5) ミスをなくすために、さらに校正に力を入れる。

3. 活動内容

- (1) 編集会議(月1回)
- (2) 紙面校正(月1回)
- (3) 当番制で初校校正(月1回)
- (4) その他編集作業において、各自自宅にて校閲作業を数回繰り返し行う。
- (5) 投稿規定説明会を開催予定

組織部

1. 体制

部長:前川信 副部長:井桁洋子・丸山由美子 会計:青木房子

部員:有馬富江・岩崎幣介・上村直美

2. 活動方針

- (1)様々な取組みを通じて会員の拡大に努める。
- (2)協会と地域、また地域同士を繋ぎ、地域への情報提供に努める。
- (3)地域コミュニケーション啓発講座を通して、聞こえに困っている人の社会参加と自立を促す。さらに見えない障害である聴覚障害の聞こえない状況やコミュニケーション方法を社会に理解してもらえるよう促進する。
- (4)ヒアリンググループマークの普及に努める。

3. 活動計画

- (1)地域コミュニケーション啓発講座を地域懇談会、東部(23区)と西部(多摩地域)の都内3か所で開催予定。
- (2)地域活動の情報提供をするためにネットワークニュースを年4回発行。
- (3)協会例会「新入会員説明会&交流会」を専門委員会や他の専門部と共催する。
- (4)東京都における補聴器助成制度と意思疎通支援事業の最新情報について、他の専門部とともに情報収集を行い、会員および地域の会に共有する。
- (5)ヒアリンググループマークの普及に努める。補聴器装用者はヒアリンググループを知らない人が多く、聞こえにくくなってきた人への情報提供を目的とする。また、設置施設にヒアリンググループマークの掲示をするよう働きかける。

実年部

1. 体制

部長:中村麻子 副部長:皆川みさ子 部員:小笠原晶子・長澤道代・山下和子

2. 活動方針

- (1)中高年の親睦を深め、引きこもりを防ぎ、毎日を楽しく生きるために様々な企画を行う。

3. 年間計画 隔月第3金曜日

実施日	内容	実施日	内容
6月21日	あなたのポートレート撮影会	1月17日	室内例会
9月20日	室内例会	3月21日	室内例会
11月15日	野外例会		

女性部

1. 体制

部長:明田美奈子 会計:佐藤緑

部員:今井節子・大江千枝・小須田希海・高田香苗・寺田由紀子・峯元弘子

2. 活動方針

- (1)女性中心でなく、高齢者や男性も参加できるようにする。
- (2)女性ならではの企画やコミュニケーション手段等に役立つ手話内容も提供。

3. 活動計画

- (1)部会は毎月第1木曜日午後開催する。
- (2)企画は第1土曜日午後開催する。
- (3)6月と9月は講演会
- (4)季節に応じた内容の企画を都度予定(例:12月クリスマスリース作り等)

青年部 (休部)

■ サークル

【手話サークル 三田昼】

1. 体制 代表:中村麻子 副代表:石川徳衛 会計:川村恵子 総務:長尾征子・清水智恵子
サポートスタッフ:加藤道子・金森滯子・山本慶子 会員数:25名
2. 活動日時 毎月第2土曜日 13時30分～15時30分
毎月第4土曜日 10時～11時30分
3. 活動場所 東京都障害者福祉会館
4. 講師 五十嵐郁子氏
5. 活動計画 2024年度から、第2週は土曜日の実施に変更。毎月2回の手話学習の他、交流会(12月)を予定。緩く楽しく手話を学びながら、会員相互の親睦を深めていきたい。

【手話サークル 三田夜】

1. 体制 代表:笹本直子 副代表:前田喜久子 会計:山本慶子 会員数:19名
2. 活動日時 毎月第1・第3土曜日 18時～20時
3. 活動場所 東京都障害者福祉会館
4. 講師 宮本正明氏
5. 活動計画 講師より楽しく教えていただきながら、手話力の向上を目指します。自ら手話で発表するというところに力点を置いているのも特徴です。会員交流のイベントも企画し、相互の理解と親睦を図ります。

【多摩手話サークル】

1. 体制 代表:牧本恵美子 副代表:志村瞳 会計:秋山孝子 会員数:14名
2. 活動日時 毎月第2木曜日 13時30分～15時30分
3. 活動場所 東京都多摩障害者スポーツセンター集会室 AB
4. 講師 永井邦子氏
5. 活動計画 講師の指導を受けながら、元気で楽しく手話の向上を目指し、交流会(7月・12月)を企画して会員相互の親睦を深める。

【多摩火曜手話サークル】

1. 体制 代表:小島敦子 会計:岩下敏美 総務:大堀亮子・渋木靖子 庶務:新井京子 会員数:23名
2. 活動日時 毎月第1・第3火曜日 13時30分～15時30分
3. 活動場所 東京都多摩障害者スポーツセンター・立川柴崎学習館
4. 講師 真藤千枝氏 本橋由美子氏(相談役)
5. 活動計画 真藤講師学習(11回)、本橋講師学習(5回)、講演会、クリスマス会

【三田絵手紙サークル】

1. 体制 代表:堀川すみれ 副代表:渡辺美恵子 会計:宮脇百合子 会員数:12名
2. 活動日時 毎月第2木曜日 13時30分～16時
3. 活動場所 東京都障害者福祉会館
4. 講師 石井幸子氏
5. 活動計画 2024年度も講師の課題に沿って進める。6月に協会の例会担当となり、今から準備を進めている。「高齢難聴者生きがい講座」にも参加。協会のお手伝いもできる範囲でやりたい。

【生け花教室】

1. 体制 代表:飯野堯子 副代表:中村久実子 会計:高山美穂 会員数:6名
2. 活動日時 毎月第1水曜日
3. 活動場所 東京都障害者福祉会館
4. 講師 飯野理堯氏
5. 活動計画 新型コロナウイルス感染症が落ち着き本格的なお稽古が動き始めます。教室も2025年の「耳の日記念文化祭」出展に向け技術向上を目指します。

【昼の読話サークル】

1. 体制 代表:須合誠子 副代表:清水智恵子 会計:古郡恵子 会員数:11名
2. 活動日時 毎月第1・第4水曜日 13時30分～15時30分
3. 活動場所 東京都障害者福祉会館
4. 講師 三宅初穂氏
5. 活動計画 講師に読話の技術を学びながら、要約筆記を付けて、ゆっくりとわかりやすい読話学習を目指します。

【多摩月曜手話サークル】

1. 体制 代表:石川千鶴 副代表:山田恵美子 会計:芦川君代 会員数:13名
2. 活動日時 毎月2回 月曜日 13時30分～15時30分
3. 活動場所 東京都多摩障害者スポーツセンター・オンライン
4. 講師 田中陽子氏
5. 活動計画 対面とオンラインを併用して、楽しく手話でお喋りしながら仲間との交流を深める。

【多摩手話コーラス「とと〜て」】

1. 体制 代表:滝沢佳子 副代表:牛窪睦 会員数:15名
2. 活動日時 毎月第1・第3木曜日 13時30分～15時30分
3. 活動場所 東京都多摩障害者スポーツセンター
4. 活動計画 聞こえていた時に流行っていた懐かしい歌、歌詞が素敵な歌など、毎回PC要約筆記の情報保障を付けて参加者で手話を考え表現し、声も出して、楽しい時間を過ごしていきたいと思っています。